

能

1 団体名・出演者

のうがくかんぜりゆう うがくかんぜりゆう してかた ひさだかんおう
 能楽観世流 シテ方 久田勘鷗

2 公演概要

演目①：能楽「羽衣」
はごろも

日本各地に伝わり、人々に親しまれてきた「羽衣伝説」はごろもでんせつをもととした、能楽本来の伝統的な魅力があふれる演目「羽衣」を上演します。

演目②：新作能「鱒」
ます

溪流の釣り人と鱒が登場する、久田勘鷗氏の新作能「鱒」。シューベルト作曲「鱒」の弦楽五重奏の演奏と声楽家の歌唱に合わせ、鱒の動きも取り入れた能舞を披露します。

公演日程：2020年11月11日（水）

<能楽観世流について>

観世流は、南北朝時代に大和（奈良県）で活動していたさるがく猿楽芸能のひとつ、ゆうざきざ結崎座に所属し、たゆう大夫（座を代表する役者）を勤めていた観阿弥が初代。観阿弥、世阿弥父子によって芸能として洗練され深みを増す。優美で繊細な表現が特徴。

<久田勘鷗氏のプロフィール>

久田勘鷗氏は、シテ方観世流能楽師・ひさだひでお久田秀雄（重要無形文化財総合指定保持者）の次男として生まれる。4歳で初舞台。子役として数多くの舞台に出演し、早くから能の道に精進を重ねる。独立後は中部・関西を中心に舞台活動をする傍ら「久田かんしょうかい観正会」を主宰し、多数の後進を指導育成している。

1991年重要無形文化財（総合指定）認定、2018年度愛知県教育表彰、2019年度文化庁地域文化功労者表彰受賞。



能楽観世流シテ方 久田勘鷗氏



能「融」とるの一場面

狂言

1 団体名・出演者

のうがくしきょうげんかたいずみりゅうのむらは 能楽師狂言方じゅうよんせいとうしゅ和泉流野村派 十四世当主・野村又三郎のむらまたさぶろう

2 公演概要

演目①：古典版「附子」

主人から附子という毒が入った桶に近付くなと言いつけられた二人の家来のユーモラスな物語。名古屋の長母寺ちょうぼじで編纂された沙石集しやせきしゅうに取材した、狂言の中で最も代表的な作品を若手二名が上演します。

演目②：現代版「附子」

古典狂言「附子」の舞台をそのまま現在に置き換え、野村又三郎氏が新たに書き下ろした現代版を、古典版の若手二人の父親に世代を変え、本邦初公開で披露します。

公演日程：2020年11月28日（土）

<野村又三郎家について>

和泉流三派（山脇・野村・三宅）の一つ。江戸時代を通じて尾張徳川藩・肥後細川藩のお抱え狂言役者として各所で舞台を勤める。明治維新以降震災や戦災を含めた混乱を超え、狂言界で唯一断絶・中絶なく十三世のむらまたさぶろうのぶひろ・野村又三郎信廣へと継承され、戦後は縁のある名古屋に本拠を移し、現在は十四世のむらまたさぶろうのぶゆき・野村又三郎信行を中心とする一門で、公演及び幅広い世代への普及活動や指導をしている。

<十四世野村又三郎氏のプロフィール>

十四世・野村又三郎氏は、1999年に国立能楽堂自主公演にて上演が途絶えていた「浦島」を約百年ぶりに復曲するなど意欲的な活動を続ける他、2003年ハリウッド映画「ラストサムライ」の劇中劇や、2005年愛知万博開会式「叡智の袋」に脚本・演出で出演するなど、狂言以外の分野においても高い評価を得ている。2013年度愛知県芸術文化選奨文化賞等を受賞。



和泉流野村派 十四世・野村又三郎氏



狂言「附子」の一場面



1 団体名・出演者

箏曲千景そうきょくちかげの会 箏演奏家 浅井大美子あさい たみこ、箏アーティスト 浅井りえあさい

2 公演概要

演目①：「六段の調べろくだん しら」、「日本の心音こころね」

日本の美しい心を「音」に託して伝えたい。浅井大美子氏の箏の演奏に、尺八、ヴァイオリン、ハーブを加え、名曲「六段の調べ」と「日本の心音」（唱歌メドレー）を披露します。

演目②：日本伝統メディアアート「千本桜せんほんざくら」（Vtuber「キミノミヤフィチューバー」と協演）

日本伝統メディアアート「千本桜」では、浅井りえ氏の箏に、笛・太鼓を加えた邦楽のコラボレーションと、あいち観光バーチャルサポーターの「キミノミヤ」が協演します。

公演日程：2020年10月21日（水）

<箏曲千景の会について>

昭和 35（1960）年に箏曲千景の会を設立以来、箏曲の普及と向上をめざして研鑽を重ね、古典を基本とした創作活動は幅広い年代層から親しまれている。また日本の伝統音楽を現代的な感性でアレンジし、海外公演などの積極的な演奏活動が高い評価を得ている。1993 年度愛知県芸術文化選奨文化賞（団体）受賞。

<浅井大美子氏のプロフィール>

箏曲千景の会主宰の浅井大美子氏は、国内はもとより、海外 32 か国で演奏活動を行い、国際的な箏演奏会として評価が高い。生田流いくた大師範。2018 年度愛知県表彰（教育文化功労者）、2019 年度文化庁地域文化功労者表彰受賞。

<浅井りえ氏のプロフィール>

箏アーティストの浅井りえ氏は、箏・三絃を母、浅井大美子氏に師事。多岐に渡るジャンルに挑戦しながら、グローバルなアーティスト活動を展開している。



箏曲千景の会主宰
箏演奏家 浅井大美子氏



箏アーティスト 浅井りえ氏

舞 踊

1 団体名・出演者

にしかりゅう そうし にしかわうこん よんせいえもと にしかわかずまさ
西川流 総師 西川右近、四世家元 西川千雅

2 公演概要

演目①：「連獅子」

名古屋独自といわれる「石橋」の舞台美術を背景に、西川千雅氏らは、コロナ禍と闘う方々へのエールを込めて、試練を乗り越える父子獅子を描く「連獅子」を演じます。

演目②：日本舞踊と薩摩琵琶のセッション

ダイナミックな薩摩琵琶（瀬戸龍介氏）の演奏と、西川右近氏の日本舞踊によるセッション。自由闊達な舞い姿は、コロナ禍で閉ざされた世界からの解放を表現します。

公演日程：2020年11月19日（木）

<西川流について>

天保12年（1841年）、初世西川鯉三郎が江戸から名古屋へ移住し西川流の初世家元となり、名古屋西川流の礎を固める。日本舞踊の五大流派の一つとよばれ日舞界でも初期の頃に誕生した流派。

<西川右近氏のプロフィール>

現在の西川流総師の西川右近氏は、日本舞踊の普及、発展のために研究努力を重ねるかたわら、「名古屋をどり」を始めとする舞踊の脚本・振付に多彩な力量を発揮。1982年度愛知県芸術文化選奨文化賞、2001年文部大臣表彰受賞。

<西川千雅氏のプロフィール>

西川流四世家元の西川千雅氏は、70年以上続く公演「名古屋をどり」を主宰、全国で芸妓・舞踊家の指導にあたっている。2016年国民文化祭あいち総合プロデューサー。2019年全国植樹祭あいち、G20外相会議文化事業にて舞踊披露。日本舞踊を使った健康体操NOSS（ノス）の普及も行う。



西川流総師 西川右近氏



四世家元 西川千雅氏

華道

1 団体名・出演者

いしだりゅう よんだいえもと いしだみか
 石田流 四代家元 石田巳賀

2 公演概要

演目①：愛知県の「かがり弁ギク」を使用した古典花

日本一の花の産地である愛知で生まれた、美しい花びらの新種「かがり弁ギク」を使い、石田流の古典花としていけます。

演目②：愛知県の「かがり弁ギク」を使用した華道パフォーマンス

映像プロジェクションによる舞台演出と、アコーディオン、ヴァイオリンのライブ演奏のなか、「かがり弁ギク」を使った大型オブジェを創る華道パフォーマンスを行います。

公演日程：2020年11月21日（土）

<石田流について>

大正11（1922）年、名古屋にて創流。花や木の真の美しさを見出し短時間にいけ上げるスピード感、文人花の「詩歌と花」の風雅さ、自由で豊かな表現などを特徴とする。

現在の石田流会長石田 秀 翠氏は、長年意欲的な創作研究と国内外で生け花の普及教育・作品発表を行い、2005年の愛・地球博、2010年のCOP10開催時には、環境問題をテーマに大作を発表し好評を得た。2013年度愛知県芸術文化選奨文化賞受賞。

<石田巳賀氏のプロフィール>

四代家元の石田巳賀氏は、幼少より祖母石田川翠氏、父秀翠氏から花を学び、現在は流派の本部講師として、また大学でも教鞭を取る。古典から現代アートまで幅広い作品を制作。書、音楽、ダンスなど異分野とのコラボレーションやパフォーマンスにも意欲的に取り組んでいる。



石田流四代家元 石田巳賀氏



源氏物語より「千年の恋」